

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実 → 生徒の希望する進路の実現
評価指標	①希望進路実現率の向上 ②授業アンケートと総合学科アンケートにおける生徒の授業満足度の向上
計画名	「夢をかなえよう KUNIJIMA STYLEで」

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1. 主体的な学習に向けた授業改善の推進</p> <p>(1) 学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。</p> <p>ア. 学習オリエンテーションの実施</p> <p>○1年時において学習オリエンテーション並びに支援週間[学習相談とつまづき克服](年3回)を設定する。</p> <p>イ. スモールステップでの学習振り返り</p> <p>○週末課題を設定し、定期的に学習の振り返りを行うとともに、課題学習を習慣化することによって、主体的な学びへの意欲を育てる。</p> <p>(2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりの推進</p> <p>ア. 「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにした授業改善の推進を図るための研修と相互に公開授業研修会を昨年度に引き続いて実施する。(研修2回/年、公開授業2回/年)</p>
事業目標	<p>本校では「未来を変える意欲と学力」の育成を目標に、平成22年度よりPISA型学力を、平成24年度よりOECDのキーコンピテンシーを、学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。</p> <p>○1年時において学習オリエンテーション並びに支援週間[学習相談とつまづき克服](年3回)を設定する。</p> <p>イ. スモールステップでの学習振り返り</p> <p>○週末課題を設定し、定期的に学習の振り返りを行うとともに、課題学習を習慣化することによって、主体的な学びへの意欲を育てる。</p> <p>(2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりの推進</p> <p>ア. 「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにした授業改善の推進を図るための研修と相互に公開授業研修会を昨年度に引き続いて実施する。(研修2回/年、公開授業2回/年)</p> <p>本校では「未来を変える意欲と学力」の育成を目標に、平成22年度よりPISA型学力を、平成24年度よりOECDのキーコンピテンシーを、学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。</p> <p>○1年時において学習オリエンテーション並びに支援週間[学習相談とつまづき克服](年3回)を設定する。</p> <p>イ. スモールステップでの学習振り返り</p> <p>○週末課題を設定し、定期的に学習の振り返りを行うとともに、課題学習を習慣化することによって、主体的な学びへの意欲を育てる。</p> <p>(2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりの推進</p> <p>ア. 「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにした授業改善の推進を図るための研修と相互に公開授業研修会を昨年度に引き続いて実施する。(研修2回/年、公開授業2回/年)</p> <p>本校では「未来を変える意欲と学力」の育成を目標に、平成22年度よりPISA型学力を、平成24年度よりOECDのキーコンピテンシーを、学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。</p> <p>○1年時において学習オリエンテーション並びに支援週間[学習相談とつまづき克服](年3回)を設定する。</p> <p>イ. スモールステップでの学習振り返り</p> <p>○週末課題を設定し、定期的に学習の振り返りを行うとともに、課題学習を習慣化することによって、主体的な学びへの意欲を育てる。</p> <p>(2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりの推進</p> <p>ア. 「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにした授業改善の推進を図るための研修と相互に公開授業研修会を昨年度に引き続いて実施する。(研修2回/年、公開授業2回/年)</p>
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教室 天吊り型プロジェクター 一式 ・電子黒板機能付きプロジェクター 22台 ・マグネットスクリーン 22台
取組みの 主担・実施者	教頭・地域連携部長
本年度の 取組内容	<p>○「未来を変える意欲と学力」として、学校全体で育成すべき力の具体的組織目標とするOECDによるキーコンピテンシー育成をめざしたICTを活用した授業改善</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コアカリキュラム授業群の実践成果を生かした、各教科・科目の授業改善、協働的で生徒主体の深い学習形態の深化 ・ユニバーサルデザインを意識した「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにした授業改善の推進 ・上記のテーマを柱とした研究・公開授業の実施
成果の検証方法 と評価指標	<p>学校教育自己診断における生徒・保護者の授業満足度の向上</p> <p>具体的には、以下の設問によって検証する。</p> <p>①授業では、体験型授業やグループワークなど生徒が主体的に参加し、学習する意欲が高まる工夫がされている。 (アクティブ・ラーニングの深化)</p> <p>②授業では、物事を論理的に考え、表現するを伸ばすための工夫が感じられる。</p> <p>③授業では、他者との協働を通して課題を解決する力を伸ばすための工夫が感じられる。</p> <p>④授業では、興味・関心のある分野について探求する力を伸ばすための工夫が感じられる。 (キーコンピテンシーの育成)</p> <p>⑤授業では、視聴覚機器やコンピュータなどICT機器が活用されている。 (授業のユニバーサルデザイン化)</p>
自己評価	<p>※(記号説明) 大きく上回った(◎)、上回った(○)、達成できず(△)、実施できず(×)</p> <p>学校教育自己診断における各項目の結果は、以下のとおりである。</p> <p>①保護者87.0% 生徒67.2% 教職員90.2% ②保護者77.6% 生徒67.8% 教職員85.4%</p> <p>③保護者74.0% 生徒72.6% 教職員80.5% ④保護者79.9% 生徒75.7% 教職員90.2%</p> <p>⑤保護者70.2% 生徒78.4% 教職員82.9%</p> <p>上記の指標から、</p> <p>①プロジェクター等の機器の各教室への導入という環境整備とともに、アクティブ・ラーニングの校内研修を実施し、教職員のその必要性・有効性の理解と意識が高まった。今年度も12月に実施した研究授業週間において、研究テーマを「アクティブ・ラーニングへの挑戦」として全教科の代表教員が授業を実施した。(○)</p> <p>②③④ただ、生徒の数値が昨年度と同様に目標に達せず、キーコンピテンシーは3年間通じての獲得という視点で見ると、実感するところまでの改善を進めることができなかった。授業のさらなる改善が必要である。(△)</p> <p>⑤各教室に設置したことによって、各教員の使用頻度が飛躍的に向上したため、「視覚化・協働化・構造化」という視点での授業改善が進んでいる。(○)</p>
次年度に向けて	<p>次年度は、分掌再編で設置した新学力育成部を中心に「未来を変える意欲と学力」として、学校全体で育成すべき力の具体的組織目標とするOECDによるキーコンピテンシー育成をめざしたICTを活用した更なる授業改善を推進する。</p> <p>具体的には次の2点を実施する。</p> <p>○アクティブ・ラーニングを推進するチームの設置</p> <p>○組織[教科]としてのアクティブ・ラーニングの深化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科における年度教育計画の策定(教科目標[育成したい力]の明確化)[4月] ・目標に基づいた公開・研究授業の実施[6月・12月] ・研修体制の充実(先進的取組み実践校の見学等[8月・11月]) ・年度末総括の実施[12月] <p>○学習評価の改善に向けた研修の実施[12月]</p>